

博物館におけるウェブサイト上でのポスター・チラシ公開 ～ポスターのデジタルアーカイブ事例～

伊藤 育代、谷 里佐 (岐阜女子大学)

1. 博物館におけるポスター・チラシ公開の現状

博物館では、企画展や特別展を開催する際に、広報活動の一環として、ポスターやチラシを制作することが多い。ポスター・チラシには、企画・特別展を実施する博物館名や開催場所等の展示概要や、展示される資料の写真等、様々な説明情報（メタデータ）が掲載されている。これらのポスター・チラシを提供することは、企画・特別展に対する人々の認知度を高めたり、興味関心を抱かせたりすることに繋がる。

現在、政府がDX（Digital Transformation／デジタルトランスフォーメーション）推進の方向性を打ち出し、企業をはじめ、世の中全般に対して示す状況にある中、博物館におけるポスター・チラシも、従来からなされていた“紙媒体を手元に届け、それを見てもらう”という形ではなく、デジタルアーカイブとして、ウェブサイトでの提供を含め、従来の広報活動モデルからの変革を促すことが期待される。しかし、現状は、博物館の公式ウェブサイト自体の公開は多くなされているものの、ポスター・チラシのウェブサイト上での公開などはそれほど多くはなされていない。そこで、いくつかの博物館を対象とし、ウェブサイト上でのポスター・チラシの公開状況の調査、分析を行った。本稿では、その中から、ポスターのデジタルアーカイブ化を進め、ウェブサイト上での公開を行っている事例について、報告する。

2. ポスターのデジタルアーカイブ事例

(1) 東京都美術館ポスターギャラリー

(<https://www.tobikan.jp/archives/poster.html>)

東京都美術館が過去に開催した展覧会ポスターの一部を公開しており、公式ウェブサイト上で閲覧できるようになっている。特徴的な点として、ポスターの画像が横6枚×縦17枚のサムネイル画像でメニュー表示され、東京都美術館が1975年9月1日に新館を開館した際の記念ポスターから本稿執筆時点での最新掲載となる2021年11月17日～2022年1月6日開催「東京都コレクションでたどる〈上野〉の記録と記憶」展までのポスター画像が公開されている。個々のポスターの画像をクリックすることで、拡大画像が表示され、展覧会名と開催期間を確認できる形

式になっている。また、ポスター以外にも、「収蔵品・アーカイブズ資料検索」より、1975年の新館開館前の旧館時代に作成された“東京府美術館旧庭園敷地図”のような貴重資料の閲覧も可能となっている。

(2) 富山県美術館ポスターアーカイブ

(<https://tad-toyama.jp/poster>)

富山県美術館の公式ウェブサイト上で、1981年7月の開館時から2022年現在までの展覧会ポスターがポスターアーカイブとして、公開されている。小さめの画像データと展覧会名、開催期間が一覧できるようになっており、画像をクリックすることで、ポスターの拡大画像がポップアップで表示される形式であり、気になる展覧会のポスターをじっくり閲覧することが可能となっている。富山県美術館のポスターは、永井一正氏、佐藤卓氏が担当しており、とくに、永井氏は、36年もの長期にわたりポスターデザインを担当し、ロゴデザインの担当もされているという。こうした、ポスターなどのデザインを担当した人物にもスポットをあて、ポスターアーカイブの中で（一部リンク先情報も含む）プロフィールや制作物への想いなども掲載している。

(3) 京都国立近代美術館 Exhibitions（これまでの展覧会）

(<https://www.momak.go.jp/Japanese/exhibitionArchive/>)

京都国立近代美術館の Exhibitions ページでは、開催中の展覧会、これからの展覧会、これまでの展覧会に分けて、1964年から現在までに開催された展覧会が一覧として記録、公開されている(図1)。2006年からポスターデータも含まれている。さらに、2018年からは、ポスターデータが拡大表示されるようになった。特筆すべきことは、企画展を開催していた当時のウェブサイトをもそのまま残し、公開していることや展覧会関連イベントの情報や会場の様子を伝えるデータなどにより総合的な構成、提示がなされていることである。

展覧会名	作品数	入場者数	1日平均
10 現代美術の動向 - 概観と展望 - 4月1日-10月1日	320	3,640人	11.4人
11 常設展 - 現代美術 10月1日-10月1日	300	16,400人	500人
12 現代イギリス人展 10月1日-10月1日	140	3,740人	11.6人
13 現代イギリス人展 続編 10月1日-10月1日	110	1,510人	7.14人
14 現代日本の正統 10月1日-10月1日	140	3,810人	11.6人
15 現代国際展 10月1日-10月1日	300	4,620人	12.2人
16 現代の美術 10月1日-10月1日	220	7,220人	22.6人
17 日本 - 文化 - 1964 現代美術展 10月1日-10月1日	320	8,770人	18.3人
18 現代日本の美術 10月1日-10月1日	260	4,970人	19.1人
19 現代日本の美術 10月1日-10月1日	270	4,960人	18.4人
20 1日展	10	20,800人	766人

図1 これまでの展覧会 1964年ページ (引用)

以上のような、ポスターのデジタルアーカイブ事例は、博物館のウェブサイト上でのポスター・チラシ公開の取り組みの先行事例として参考になる。今後、こうした先行事例などに加え、利用者ニーズの調査分析などを踏まえた、提示、公開への取り組みが求められると考える。

(本稿は、伊藤育代学術論文(令和3年度受理)「博物館におけるウェブサイト上でのポスター・チラシ公開に関する情報分析」から、ポスターのデジタルアーカイブ事例に関する調査結果についてまとめたものである)